

平成25年度 自己点検・評価書

平成26年3月

佐賀大学

保健管理センター

(外部評価に関しては、外部評価委員、田端正明(佐賀大学名誉教授・客員研究員)、江藤敏治(宮崎県立看護大学教授)の2名によって、平成26年10月2日、午前中に本庄キャンパス、午後に鍋島キャンパスで行われた。そのコメントは、青色で記載した)

I. 日常業務である保健管理センター活動について

平成 25 年度における保健管理センターの日常業務に関して、その活動報告および自己評価を行う。

<本庄キャンパス>

I. 平成 25 年度学生健康管理実施状況

<本庄キャンパス>

1. 学生健康診断他活動状況

本庄地区では、健康診断として、新入生健康診断、在学生健康診断、留学生健康診断、スポーツ健康診断、R I 健康診断、感染対策として、小児感染症抗体検査、メンタルヘルスとして、通常カウンセリングおよびスクリーニング、その他として、禁煙サポート、肥満学生支援、ブルガタ精査、健康診断証明書発行などの業務があります。

鍋島地区では、健康診断として、在学生健康診断、大学院生健康診断、R I 健康診断、感染対策として、小児感染症対策（新入生）、B 型肝炎ワクチン接種、ツベルクリン反抗検査、インフルエンザワクチン接種、メンタルサポートとして、カウンセラー面談、その他として健康診断証明書発行などの業務があります。

2. 定期健康診断：

新入生 1,195 名中 1,190 名（99.6%）が定期健康診断を受けた。2 年生、それ以降の学生および大学院生を含めると、計 6,195 名中 5,235 名（84.5%）が健康診断を受けていた。昨年度と比較して、受診率は 84.6%から 84.5%とほぼ同じ割合であった。

3. 健康診断結果

（1）既往歴・現症または有所見者状況

新入生における既往歴では、気管支喘息 88 名、骨・関節疾患 46 名、心疾患 16 名、アトピー性皮膚炎 12 名の順であった。また、新入生の現症または有所見者の中で、頻度の高い疾患および状態像は、やせ（BMI 18 未満）が 111 名、肥満（BMI 30 以上）が 16 名、アレルギー鼻炎 25 名、アトピー性皮膚炎が 24 名、心雑音・不整脈が 11 名、高血圧傾向が 0 名であった。

全学的にみると、既往歴では、気管支喘息 266 名、骨・関節疾患 130 名など、現症・有所見者では、やせ（BMI 18 以下）473 名、肥満（BMI 30 以上）121 名、アレルギー性鼻炎 65 名の順であった。

（2）健康診断の有所見者状況

本庄キャンパス全体をみると、胸部 X-P では、0.5%に有所見がみられ、血圧測定では、2.2%、尿検査では 4.2%、新入生の心電図では、11.6%に有所見がみられた。特に、留学生の尿所見において、有所見率が高かった（7.3%）。

（3）心電図検査結果（新入生・留学生）および血液検査（留学生）

新入生の心電図の有所見者は、125 名。その検査結果では、ST-T 異常 41 名、完全右脚ブロック 13 名、Brugada 型 9 名、WPW 症候群 8 名、心室性期外収縮 3 名、洞性徐脈 3 名などであった。留学生は、日本

人学生と比較して、心電図異常は少なかった。心電図の有所見者は、前年度と比較して、13名増加。

留学生の血液検査で異常を示す者では、前期では213名中37名に高脂血症、7名に肝機能障害、8名に高尿酸血症が認められた。後期では、高脂血症18名、肝機能障害4名、高尿酸血症および貧血3名の順であった。

4. スポーツ学生健康診断結果

対象者716名中435名(60.8%)の受診者があった。昨年度の受診率(91.1%)と比較して、かなり低下した。異常所見としては心電図検査で54名が該当したが、経過観察とした。医療機関に通院中の学生が14名いたが、スポーツを行う上で、大きな支障が生じることはなかった。今年度はマネージャーを含む131名の学生にアルコールパッチテストを実施し、飲酒に対しての指導を行った。さらに、喫煙者は20名にみられた(去年は、20名)。

5. メンタルヘルス対策

(1) 心理面のスクリーニングを行うために、本年度は新入生、卒業予定学生(学部学生)および大学院生へ「一般健康調査票(CMHQ)」 「College Mental Health Questionnaire」を配布した。それぞれの結果のまとめを以下に提示する。

新入生の回収率は、1,186名中1,182名(99.7%)であり、昨年同様に高かった。CMHQのスコアが20点以上(ストレス過剰の可能性)の学生は187名(15.8%)であった。全学部とも、10数%の学生が要面接となった。

卒業予定者の回収率は、1,609名中1,200名(74.6%)であった。要面接の学生は14.9%であった。幸いなことに、昨年度と比較して、8.8%減少した。

大学院生の回収率は、715名中499名(69.8%)であった。幸いなことに、要面接の学生は8.6%(昨年度は13.3%)であった。

半構造化面接 Mini-International Neuropsychiatric Interview (MINI) を施行し、DSM-IV に基づく精神の分類を行った結果、頻度の高い診断としては、大うつ病エピソード9名、発達障害の可能性9名、強迫性障害5名などが認められた。

状態像診断では、不安状態21名、うつ状態16名、心気状態8名などであった。

全般的にみると、ストレスの度合は、編入生20.0% > 新入生15.8% > 卒業予定者(学部学生)14.9% > 大学院生8.6% の順に高かった。

(2) カウンセリング状況

カウンセリング体制は、本庄6名(医師2名、看護師3名(内、再雇用1名)、カウンセラー2名(いずれも非常勤)、鍋島5名(医学部精神科・学校医を含む)で対応している。両キャンパスで、実数は307名、延べ人数は1,114名、病院紹介は85名であった。学生カウンセリングの相談内容は、精神衛生が244名と圧倒的に多く、対人関係が52名の順であった。

(3) 学生支援部門との連携状況

平成23年7月より、導入された「キャンパスソーシャルワーカー」制度。教員との連絡がとれない学生、出席ができていない学生などに対して、積極的に連絡をとったり、自宅訪問するアウトリーチ型支援をおこなっている。相談依頼は、指導教員33件、保護45件、その他4件であった。のべ電話回数

991回（昨年度より324回増加）、のべメール送信数831回（昨年度より453回増加）、のべ面接回数444回（昨年度より312回増加）であった。

外部評価委員のコメント：キャンパスソーシャルワーカーも有効に機能していると評価できる。

附属病院では、精神神経科・学校医2名の協力を得て、附属病院および学外のメンタルクリニックに積極的に紹介受診させている。なお、本年度からカウンセラーが1名常勤化された。

（4）休・退学調査・障害学生状況

平成24年度の休学者は250名、退学者は139名、計389名であった（昨年度は403名）。休学率が高いのは、大学院6.5%、経済学部3.7%の順であり、退学率が高いのは、大学院4.6%、理工学部2.4%の順であった。退学の理由は、再受験・進路再考、学業不振、家庭経済状況の順に多い。

障害学生については、平成25年度は22名。肢体不自由11名、聴覚障害3名、視覚障害2名、心臓等の機能障害2名の順であった。（計22名、これは平成24年度と同じ数）

外部評価委員のコメント：休退学者数は、全国の大学と比較して、やや多いのではないと印象を受ける。

答え：確かにやや多いと思われる。次年度に、その要因究明を行いたい。

6. 感染症対策

麻疹の流行に伴う大学等の教育実習生の対する指導に基づき、当大学においても感染拡大・防止のための教育実習生等を対象に麻疹の罹患歴・麻疹ワクチン接種状況の問診と抗体検査を実施することとした。第1回の実施では273名が検査を受け、第2回の実施では26名が検査を受けた。抗体値が低い学生に対しては、個別に医療機関を紹介し、ワクチン接種を勧奨した。

7. 健康診断証明書発行状況

平成24年度から導入された自動発行機による発行件数は、5,873通（昨年度より、3,388通増加）、保健管理センターにおける発行件数は、約950通であった。1年間を通じて、明らかに2、3月の発行が多いのは、就職エントリー用の診断証明書であった。

外部評価委員のコメント：本庄地区の学生支援は、おおむね良好である。

8. 教職員の健診および対応

本庄地区では、労働安全衛生管理活動状況として、職場環境の整備（作業環境管理・職場の巡視・5S活動・快適職場づくり）、マニュアル等の整備（安全衛生管理マニュアルの作成・MSDSの整備）、健康保持増進対策（健康診断・有所見者に対する事後措置）・メンタルヘルス対策・受動喫煙防止対策）、安全衛生教育（安全衛生教育・能力向上教育・衛生管理者等資格者の確保）の活動がなされている。

（1）定期健康診断：

雇用時健康診断、一般定期健康診断、特定業務従事者健康診断、他機関受診者を併せると、950名が健診を受けていた。その中で、有所見数は511名（53.8%）であった。

外部評価委員のコメント：健康診断事後指導率が低いのではないかな。

答え：この問題に対しては、保健師のさらなる努力を促したい。

（２）メンタルヘルス対策

（a）健康相談調査（メンタルスクリーニング）

本庄地区では、附属学校教職員に「勤労者の疲労蓄積度自己診断チェックリスト」でスクリーニングを行った。

さらに、事務職員には「中災防ウェルネスチェックシート」でのスクリーニングを行った。対象者 104 名中 103 名からの回答を得て（回収率 99.0%）、要配慮者は 27 名（26.2%）であった。

（b）カウンセリング状況（本庄地区）

カウンセリング体制は、産業医 2 名、産業カウンセラー（非常勤） 1 名、ナース 2 名である。新規相談の実数は、48 名、延べ面談数は、192 名であった。相談の内訳は、精神衛生が 40 名、人間関係が 23 名、身体健康が 17 名などであった。

（３）復職支援実施状況（本庄地区）

佐賀大学では、病気（メンタルヘルスの不調者を含む）やけがなどが原因で心身の健康を害し、休職している教職員（休職しようとする方を含む）に、段階（0～4 段階）ごとに産業医等の支援の下に実施している。第 0 段階（発症時の支援）、第 1 段階（療養開始・療養中の支援）、第 2 段階（復職復帰準備期の支援）、第 3 段階（職場復帰時の支援）、第 4 段階（職場復帰後の支援）である。

本年度の復職支援は、メンタル以外は 2 件（延べ 2 回）、メンタルは 8 名（延べ 29 回）であり、復職判定会議は、計 4 回施行された。

（４）労働災害報告（本庄地区）

平成 24 年 4 月から平成 25 年 1 月までで、本庄地区は 10 件であった。

外部評価委員のコメント：これらの結果から、大学との協議を行い、課題や対策などの検討してもらいたい。

答え：今後、教職員担当の副学長に、これらのデータを提示して、大学全体として、今後どうすればよいのかを話し合う機会を設けたい。

9. 保健管理センター利用状況（本庄）

保健管理センターの利用件数は 8,638 件（学生 6,827 件・職員 1,811 件）であった。本年度は昨年度と比較して、職員・学生のメンタルヘルスの増加、ヘルストロン・休養室および休憩室の利用者が増加した。8,638 件という利用件数は、本大学の保健管理センターが学生および職員の保健管理および治療において十分な役割を果たしていると考えられる。

<鍋島キャンパス>

【学生現状分析】

1. 定期健康診断

新入生 166 名中 166 名 (100.0%) が定期健康診断を受けた。在学生は 877 名中 870 名 (99.2%) であった。大学院生は社会人学生の割合も多く、199 名中 54 名 (27.1%) が受診した。

外部評価委員のコメント：医学部の大学院生の定期健康診断の受診率が低い理由とその対策を講じる必要がある。

答え：社会人入学生がほとんどであり、仕事などの都合から受診日に来れない学生が多い。しかし、日程調整などを行い、今後、受診率が増加するような工夫を考える。

2. 新入生健康診断

新入生における現症または所見のある者の中で、頻度の高い疾患および状態像は、アレルギー体質が 7 名、やせ (BMI18.5%未満) が 15 名などであった。心電図検査結果では、ブルガタ疑い 4 名などが認められた。

3. ワクチン接種状況

ムンプス・麻疹・風疹・水痘などの小児感染症については、延べ 133 名がワクチン接種対象となった。B 型肝炎ワクチンは、医学科 4 年 97 名・看護学科 2 年の 60 名、計 157 名が接種を受け、140 名が陽転した。陽転しなかった学生については、1 月・2 月に追加接種を行い、3 月末に確認検査を行う。

インフルエンザワクチン接種は、11 月～12 月に実習学生医学科 5・看護学科 3 年、および国家試験を受ける学年医学科 6 年・看護学科 4 年、勸奨学年医学科 2.4 年生を中心とした 595 名に接種した。

4. 健康相談（メンタルヘルス支援）

新入生については、これまで同様に入学時健康診断のスクリーニング調査結果で、ポイントの高い学生 11 名および健康状態について確認が必要な学生 3 名を対象に実施した。H23 年度から、医学科 4、医学科 2 年、看護学科 3 年を対象に全員スクリーニング面接を実施した。

看護学科は、2 年生 1 名が進路再考、4 年生が精神疾患のため自主退学、2 名が休学、1 名留学するなど、看護学科学生も以前より休学・退学が増加した。医学科は 2 年生の留年が多く、スクリーニング面接は複数回呼出しても、来談しない学生もあり、100%実施できなかった。医学科 4 年生は全員面談実施し、留年生については、できる限り 2 回の面談を実施した。面談結果については、カウンセラーによる報告書作成し、教育委員会やチューター会議で報告を行った。

今年度は、医学科 5 年生については、実習中の目立った問題はなかったが、低学年児より講義出席が悪い学生数名の問い合わせがあった。看護学科 3 年生については、2 名ほど短期の体調不良により実習を休むなど認めたが、完全なドロップアウトには至らなかった。

対応が難しい学生も多く、医学部精神神経科学学校医の協力を得て、3 名の学生に述べ回保健管理センターで診察が行われた。留年を繰り返す学生には、精神面・学業面での支援は不可欠で、精神科医と学生サービス課、チューター、および保護者との連携は不可欠であった。さらに、今年度は地域のひきこもり支援施設の利用ケースもあり、地域のサポート支援との連携が必要なケースがあった。これからは、学内だけの支援体制だけでなく、地域のサポートとも積極的なかわりが必要と思われる。

また、今年度は低学年からの留年が多数見込まれるため、3 月時点での対応をどのように行っていくことも必要であると考えられた。

5. 健康診断証明書発行状況

平成24年度から、健康診断書の自動発行がスタートした。

2月～1月までに213通の健康診断証明書の自動発行利用があった。医学部の場合は、免疫の記録（小児感染症・B型肝炎ワクチン接種・ツベルクリン反応検査）と国家試験免許申請に関する診断書発行が多く、保健管理センターでの診断書発行は449件であった。

7. 保健管理センター利用状況

H26年度の1月末までの保健管理センターの利用件数は6074件（学生2600件・職員3474件）であった。

【職員現状分析】

1. 健康診断

職員健診は、附属病院ということもあり、定期健康診断の100%受診を労基署より指導をされ、100%受診できている。しかし、要精密検査の再検査の未提出が多く、多忙な職務の中での健康管理が課題である。

外部評価委員のコメント：職員定期健康診断の受診率は十分である。

2. 感染症対策

職員の感染症対策については、総務課・附属病院感染制御部と協力し企画・実施した。

ムンプス・麻疹・風疹・水痘などの小児感染症については、雇用時に全員対象に行い、抗体が不足している職員述べ188名に追加接種を行った。（H24年度より同時接種を行った）

B型肝炎対策は、今年度から節目検査がスタートし、5年ごとに検査を行う職員にも対応し、195名にワクチン接種を行った。

ツベルクリン検査はH25年度から中止となり、結核接触があった場合Tスポット検査に替わった。

インフルエンザは、全職員を対象に実施した。委託職員なども含め1738名にワクチン接種を行った。

3. メンタルヘルス対策

鍋島職員には、全職員スクリーニングに加え、健康診断時に中災防ウエルネスチェックを行った。また、復職支援体制が充実し、定期的な産業医・産業保健スタッフの面談・支援により、休職者の減少につながったと考えられる。

職員が1600人と多く、人の出入りも多いため今後もメンタルヘルス支援の協力体制は重要である。

II. 教育に関する状況と自己評価

保健管理センターの教員3名はそれぞれ講義および大学院生をもち、教育においても大学において貢献している。その具体的な内容を以下に示す。

本庄キャンパスに勤務する佐藤と木道については以下の通りである。

<本庄キャンパス>

1. 講義

学内： 木道圭子：

健康スポーツ科学・後期（対象：農学部1年生）

トレーニング理論・実習（池上寿伸・木道圭子）：1年生前学期

佐藤 武：

健康科学・前期

理工学部（機能物質科学）フレッシュマンセミナー

医学部・精神医学（コンサルテーション・リエゾン精神医学）

農学部 「メンタルヘルス」

医学部医科学専攻・修士課程・精神心理学特論

医学部医科学専攻・博士課程・健康スポーツ学特論「ストレスと運動」

学外（佐藤）：

放送大学（専門科目：心理と教育 | こころアレルギー）

日本赤十字九州国際看護大学（統合失調症と妄想性障害、気分感情障害、人格障害・薬物依存・てんかん、脳機能と薬物療法）

2. 大学院生等指導

大学院医学系研究科博士課程医科学専攻4年生 濱田維子

大学院医学系研究科修士課程医科学専攻2年生 柴 佳宝（本年3月卒業予定）

大学院医学系研究科修士課程医科学専攻2年生 中村志織（本年3月卒業予定）

大学院医学系研究科修士課程医科学専攻2年生 竹岸智子

大学院医学系研究科修士課程医科学専攻1年生 花房喜代治

<鍋島キャンパス>

1 講義等

尾崎岩太. 実習の安全管理：感染予防を中心に. 医学科4年 臨床入門. 2012.1.23

尾崎岩太. 医学生健康管理. 医学科3年 地域医療 Unit 1 PBL 講義. 2011.4.21.

尾崎岩太. 主題科目 ニュートリション&フィットネス講義. 医学部1年. 2012.5.11, 2012.10.31
PBL チューター

Unit2 消化器 医学科3年 2010.5.22&25, 2010.6.12&15

2 大学院生等受け入れ指導

佐賀大学医学部客員研究員 夏 京合

社会人大学院医学系研究科博士課程医科学専攻 2 年 桑代卓也

佐賀大学大学院医学系研究科修士課程 1 年 斉 靖言

外部評価委員のコメント：十分な教育が行われている。大学院における大学院生研究指導などの教育領域において十分評価できる。

Ⅲ 研究に関する状況と自己評価

研究に関しては、本来の業務に追われて、十分な研究が行われているとはいえないものの、研究報告および学会発表は、ある程度の業績を提出していると自負している。以下に、研究報告および学会発表の内容を提示する。

<本庄キャンパス（佐藤・木道）>

研究報告

〔著書・総説〕

1. Nagamatsu M, Yano K, Sato T: Adolescent health, public health responses, and sex education program in Japan. International Handbook of Adolescent Pregnancy: Medical, Psychosocial, and Public Health, Springer Publishing Company in NYC, pp.419-431, 2014.
2. 佐藤 武：大学生のストレスとその心理相談. CAMPUS HEALTH（印刷中）

〔研究・症例報告〕

1. Yang C, Yamawaki N, Miyata M, Sato T: Prevalence and risk factors of Internet addiction: A cross-National comparison between Japanese and Chinese freshmen. Transcultural Psychiatry 50(2):263-279, 2013.
2. Nagamatsu M, Sato T, Nakagawa A, Saito H: Factors Influencing Attitudes to Sexual Activity among Early Adolescents in Japan. Journal of Early Adolescent, 33(2), 267-288. 2013.
3. Chai J, Yang C, Miyata M, Sato T : Prevalence and risk factors of Internet addiction: A cross-National comparison between Japanese and Chinese freshmen 第34回全国大学メンタルヘルス研究会報告書, pp.28-38, 2013.
4. 岩本利恵、佐藤 武：難病を抱える患者における自己超越性の強化. 精神神経学雑誌 115(6):561-569, 2013.
5. 安宅勝弘、影山任佐、齋藤憲司、佐藤 武、粥川裕平：大学院における休学・退学・留年学生に関する調査—平成22年度調査結果を中心に. 第34回全国大学メンタルヘルス研究会報告書, pp.20-27,

2013、

6. 柴佳宝、佐藤 武：うつ病の理解と対応の考え方ー日本と中国における大学生の比較研究ー. 第 35 回全国大学メンタルヘルス研究会報告書（印刷中）
7. 丸谷俊之、安宅勝弘、齋藤憲司、佐藤 武、富田悟江、杉田義郎、苗村育郎：大学院における休学・退学・留年学生に関する調査ー平成 23 年度調査結果を中心に. 第 34 回全国大学メンタルヘルス研究会報告書（印刷中）
8. 花田陽子、島ノ江千里、山本あゆみ、南嶋里佳、佐藤 武、新地浩一：佐賀大学にけるキャンパス・ソーシャルワーカー制度のあり方～制度導入から現在までの 2 年間の実績と評価. 第 35 回全国大学メンタルヘルス研究会報告書（印刷中）
9. 古川尚子、尾崎岩太、多胡雅毅、武富弥栄子、古川早苗、安田郁、木道圭子、佐藤武、江口有一郎、山下秀一：話し易い職場は職員の疲労を軽減する. CAMPUS HEALTH（印刷中）

〔学会発表〕

1. 木道圭子、小川康子、福島雅子、武富弥栄子、古川早苗、安田郁、尾崎岩太、佐藤武：肥満学生の二次健診と保健指導 第 43 回九州地区保健管理研究協議会 平成 25 年 8 月 28 日～30 日 沖縄県那覇市 ホテルロイヤルオリオン、沖縄.
2. 柴佳宝、佐藤 武：うつ病の理解と対応の考え方ー日本と中国における大学生の比較研究ー. 第 35 回全国大学メンタルヘルス研究会、平成 25 年 12 月 5 日～6 日、大阪.
3. 丸谷俊之、安宅勝弘、齋藤憲司、佐藤 武、富田悟江、杉田義郎、苗村育郎：大学院における休学・退学・留年学生に関する調査ー平成 23 年度調査結果を中心に. 第 34 回全国大学メンタルヘルス研究会、平成 25 年 12 月 5 日～6 日、大阪.
4. 花田陽子、島ノ江千里、山本あゆみ、南嶋里佳、佐藤 武、新地浩一：佐賀大学にけるキャンパス・ソーシャルワーカー制度のあり方～制度導入から現在までの 2 年間の実績と評価. 第 35 回全国大学メンタルヘルス研究会、平成 25 年 12 月 5 日～6 日、大阪.
5. 柴佳宝、佐藤 武：エアロビクス・エクササイズによる心身面における短期間及び長期間の効果. 第 31 回日本肥満症治療学会学術集会、平成 25 年 6 月 28～29 日、東京.
6. 佐藤 武：Psychological Allergy. 世界中医約学会連合会：2013 年神志病学術年会 専科講座、哈爾濱、平成 25 年 8 月 23 日～26 日、中国.
7. 佐藤 武：大学生におけるメンタルヘルスーこころアレルギーー. 第 10 回日本うつ病学会総会、平成 25 年 7 月 19 日～20 日、北九州.

〔その他〕

1. 佐藤 武：診察室から「夫源病とは ～夫が原因で心身の不調を訴える病気～」佐賀新聞：平成 25 年 4 月 19 日号.
2. 佐藤 武：診察室から「職場のメンタルヘルス・早期離職の理由とその対策」. 佐賀新聞：平成 25 年 5 月 18 日号.
3. 佐藤 武：診察室から「ストレスとレジリエンスの関係：現代の若者の悩み」佐賀新聞：平成 25 年 6 月 15 日号.
4. 佐藤 武：診察室から「連絡がとれない学生への対応：キャンパスソーシャルワーカー」. 佐賀新聞：平成 25 年 7 月 13 日号.

5. 佐藤 武：診察室から「新型うつ病」って？現代社会の変化に伴う現象なのか」佐賀新聞：平成 25 年 8 月 10 日号。
6. 佐藤 武：診察室から「ネット社会の弊害：人と人のつながりを大切に」佐賀新聞：平成 25 年 9 月 7 日号。
7. 佐藤 武：診察室から「うつ病の教育が重要：自殺者を減少させるため」佐賀新聞：平成 25 年 10 月 5 日号。
8. 佐藤 武：ネット時代の子どもたち（2）－依存。佐賀新聞：平成 25 年 10 月 8 日号。
9. 佐藤 武：診察室から「対象喪失と依存 こころの距離の調節」佐賀新聞：平成 25 年 11 月 2 日号。
10. 佐藤 武：診察室から「脳が進化しすぎて「うつ病」に？」佐賀新聞：平成 25 年 11 月 30 日号。
11. 佐藤 武：診察室から「T L C（生活改善療法）規則正しい生活と運動」佐賀新聞：平成 25 年 12 月 28 日号。
12. 佐藤 武：診察室から「モラル・ハラスメント」。佐賀新聞：平成 26 年 2 月 8 日号。

<鍋島キャンパス（尾崎）>

[著書]

水田敏彦、江口有一郎、河口康典、高橋宏和、尾崎岩太。肝疾患における糖代謝異常と内臓脂肪蓄積の重要性 肝臓フォーラム‘11 記録集（編集：戸田剛太郎、沖田極）p169-182, 2012 医事出版社

原著論文

著書

尾崎岩太，夏京合，松橋幸子，斉靖言，岩根紳治，高橋宏和，水田敏彦。Vitamin K2 の NF- κ B 活性化抑制過程における protein kinase C isoform の役割。第 15 回 Vitamin K & Aging 研究会記録集 p63-67, エーザイ株式会社 2013（東京）

原著論文

1. ○ Hara M, Okada K, Yamaguchi Y, Uno S, Otsuka Y, Shimanoe C, Nanri H, Horita M, Ozaki I, Nishida Y, Tanaka K. Immunogenicity and safety after booster vaccination of diphtheria, tetanus, and acellular pertussis in young adults: An open randomized controlled trial in Japan. Clin Vaccine Immunol. 2013; 20(12): 1799-804.
2. ○ Kawaguchi Y, Mizuta T, Eguchi Y, Sakurai E, Motomura Y, Isoda H, Kuwashiro T, Oeda S, Iwane S, Takahashi H, Anzai K, Ozaki I. Whole-body Insulin Resistance is Associated with Elevated Serum α -fetoprotein Levels in Patients with Chronic Hepatitis C. Intern Med. 2013;52(21):2393-400.
3. * Kitajima Y, Hyogo H, Sumida Y, Eguchi Y, Ono N, Kuwashiro T, Tanaka K, Takahashi H, Mizuta T, Ozaki I, Eguchi T, Kimura Y, Fujimoto K, Anzai K; Japan Nonalcoholic Fatty Liver Disease Study

- Group (JSG-NAFLD). The severity of nonalcoholic steatohepatitis is associated with substitution of adipose tissue in skeletal muscle. *J Gastroenterol Hepatol*. 2013; 28(9): 1507-14.
4. * Ma G, Zhang H, Dong M, Zheng X, Ozaki I, Matsuhashi S, Guo K. Downregulation of programmed cell death 4 (PDCD4) in tumorigenesis and progression of human digestive tract cancers. *Tumour Biol*. 2013; 34(6): 3879-85.
 5. ○ Oeda S, Mizuta T, Isoda H, Kuwashiro T, Iwane S, Takahashi H, Kawaguchi Y, Eguchi Y, Ozaki I, Tanaka K, Fujimoto K. Survival advantage of radiofrequency ablation for hepatocellular carcinoma: Comparison with ethanol injection. *Hepatogastroenterology*. 2013 May 1;60(126): 1399-404.
 6. * Tahara H, Sato K, Yamazaki Y, Ohyama T, Horiguchi N, Hashizume H, Kakizaki S, Takagi H, Ozaki I, Arai H, Hirato J, Jesenofsky R, Masamune A, Mori M. Transforming growth factor- α activates pancreatic stellate cells and may be involved in matrix metalloproteinase-1 upregulation. *Lab Invest*. 2013 ;93(6):720-32.
 7. ○ Takahashi H, Mizuta T, Oeda S, Isoda H, Nakashita S, Kawaguchi Y, Izumi N, Hirai M, Kurose K, Iwane S, Eguchi Y, Kimura S, Anzai K, Ozaki I. An automated rapid detection system using the quenching probe method for detecting interleukin 28B and inosine triphosphatase single nucleotide polymorphisms in chronic hepatitis C. *J Viral Hepat*. 2013; 20(4):e124-6.

学会発表等

- Ide Y, Isoda H, Takahashi S, Iwane S, Nakashita S, Kamachi S, Kohira T, Anzai K, Ozaki I, Mizuta T. Estimation of mean plasma glucose level using conventional glucose metabolism and hepatic function markers in patients with liver cirrhosis. *APASL Liver Week2013.7.6-10 Singapore, Final program 254, 2013*
- Ide Y, Mizuta T, Isoda H, Otsuka T, Nakashita S, Kamachi S, Tsuji C, Anzai K, Ozaki I. Development of a formula for estimating the daily average plasma glucose concentration in patients with liver cirrhosis and its clinical application. 64th Annual meeting of the AASLD. 2013.11.1-11.5 Washington, DC. *Hepatology* 2013; 57 (4) Suppl. A (#1380), 201
- * Iwane S, Mizuta T, Kawaguchi Y, Takahashi H, Oza N, Oeda S, Kuwashiro T, Isoda H, Eguchi Y, Ozaki I. Body weight reduction by life-style intervention can improve early virologic responses of peginterferon/ribavirin therapy in chronic hepatitis C patients with insulin resistance: A randomized controlled trial. 64th Annual meeting of the AASLD. 2013.11.1-11.5 Washington, DC. *Hepatology* 2013; 57 (4) Suppl. A (#1916).
- Kamachi S, Ide Y, Tsuji C, Nakashita S, Otsuka T, Eguchi Y, Ozaki I, Miyoshi A, Kitahara K, Mizuta T. The impact of sarcopenia on the recurrence of hepatocellular carcinoma in HCV-related liver cirrhosis. 64th Annual meeting of the AASLD 2013.11.1-11.5 Washington, DC. *Hepatology* 2013; 57 (4) Suppl. A (#2169).
- Kawaguchi Y, Mizuta T, Eguchi Y, Kohira T, Kamachi S, Kuwashiro T, Oeda S, Nakashita S, Iwane S, Ide Y,

Ozaki I. Whole-body insulin resistance and IL28B polymorphism are independent factors contributing to SVR in PEG/RBV of HCV-infected patients with genotype 1. APASL Liver Week 2013.7.6-10 Singapore Final program 143(P048), 2013.

* Kawazoe S, Tanaka K, Murayama K, Oza N, Akiyama T, Kumagai T, Araki N, Otsuka T, Ozaki I, Mizuta T. Post-sorafenib therapies for patients with advanced hepatocellular carcinoma are effective. ILCA 2013 Seventh Annual Conference 2013.9.13-15 Washington DC.

○ Nakashita S, Otsuka T, Tsuji C, Kamachi S, Ide Y, Kawazoe S, Eguchi Y, Ozaki I, Mizuta T. Adjuvant effect of administration of vitamin K2 combined with sorafenib in subjects with advanced hepatocellular carcinoma. ILCA 2013 Seventh Annual Conference 2013.9.13-15 Washington DC.

○ Oeda S, Eguchi Y, Kohira S, Kamachi S, Furukawa N, Kuwashiro T, Nakashita S, Iwane S, Ide Y, Kawaguchi Y, Noda T, Ozaki I, Mizuta T, Iwakiri R, Anzai K. The increase in poor lifestyle factors is a risk for hepatocellular carcinoma in patients with hepatitis C virus infection. 48th Annual Meeting of the European Association for the Study of the Liver 2013.4.24-28 Amsterdam PROGRAMME Abstract No 664 (Poster): 168, 2013.

○ Okada M, Mizuta T, Kitajima Y, Kawaguchi Y, Iwane S, Ide Y, Eguchi Y, Anzai K, Ozaki I. Muscle adiposity influences viral response to pegylated interferon plus ribavirin treatment in patients with genotype 1 chronic hepatitis C. 64th Annual meeting of the AASLD. 2013.11.1-11.5 Washington, DC. Hepatology 2013;57 (4) Suppl. A (#1951).

○ Otsuka T, Yanagita K, Nakashita S, Ario K, Kawasoe H, Kawazoe S, Kitahara K, Kato H, Eguchi Y, Mizuta T (Saga Liver Cancer Study Group) A scoring method for management of sorafenib after radiological progression in advanced hepatocellular carcinoma. ILCA 2013 Seventh Annual Conference 2013.9.13-15 Washington DC.

Ozaki I, Hamajima H, Xia J, Qi J, Mizuta T, Anzai K, Matsushashi S. Mitogen- and phosphorylation site-specific degradation mechanisms of tumor suppressor PDCD4 in human HCC cells. 64th Annual meeting of the AASLD. 2013.11.1-11.5 Washington, DC. Hepatology 2013; 57 (4) Suppl. A (#535).

○ Guo J, Xia J, Qi J, Kuwashiro T, Mizuta T, Ozaki I, Anzai K, Matsushashi S. PDCD4 knockdown inhibits cell growth by interfering cell cycle regulators in hepatoma cells 第36回日本分子生物学会年会 2013.12.3-6 神戸 #1P-0498.

○ 井手康史、磯田広史、小平俊一、蒲池紗央里、中下俊哉、岩根紳治、大枝敏、河口康典、江口有一郎、尾崎岩太、水田敏彦. 肝硬変患者の補正 HbA1c 算出式の作成とその有用性の検討 第17回日本肝臓学会大会 2013.10.9-11 東京 肝臓 54:A587(肝 P-168), 2013.

○ 蒲池紗央里、中下俊哉、小平俊一、岩根紳治、井手康史、北島陽一郎、江口有一郎、安西慶三、尾崎岩

太、水田敏彦 骨格筋の脂肪化は C 型肝炎の再発に関与する 第 49 回日本肝臓学会総会 2013.6.6-7 東京 肝臓 54: A244(O-270), 2013.

* 北島陽一郎、江口有一郎、田中賢一、高橋宏和、水田敏彦、尾崎岩太、小野尚文、江口尚久、藤本一眞、安西慶三. HbA1c は血清 ALT 値ではなく肝の脂肪化と関連する. 第 56 回日本糖尿病学会年次学術集会 2013.5.16-18 熊本 糖尿病 56 Supplement 1: S44(III-P-368), 2013.

* 北島陽一郎、江口有一郎、田中賢一、高橋宏和、水田敏彦、尾崎岩太、小野尚文、江口尚久、角田圭雄、兵庫秀幸、藤本一眞、安西慶三. NASH における多裂筋面積と線維化進展との関連 第 49 回日本肝臓学会総会 2013.6.6-7 東京 肝臓 54: A125(O-31), 2013.

* 北島陽一郎、江口有一郎、高橋宏和、水田敏彦、尾崎岩太、小野尚文、江口尚久、角田圭雄、兵庫秀幸、藤本一眞、安西慶三. NASH における線維化進展と骨格筋面積との関連 第 34 回日本肥満学会 2013.10.11-12 東京 肥満研究 19 supplement: 185(P-060), 2013.

* 小平俊一、井手康史、蒲池紗央里、中下俊哉、岩根紳治、河口康典、江口有一郎、尾崎岩太、水田敏彦. C 型肝炎における肝硬度 (ARFI) と耐糖能の関連 第 17 回日本肝臓学会大会 2013.10.9-11 東京 肝臓 54: A632(肝 P-345), 2013.

○ 桑代卓也、尾崎岩太、夏 京合、松橋幸子、岡田倫明、江口有一郎、水田敏彦、安西慶三. 細胞外マトリックスは NFκB シグナルを介してインターフェロンシグナルに影響する. 第 36 回日本分子生物学会年会 2013.12.3-6 神戸 #2P-0755.

○ 松橋幸子、岡田倫明、大内田守、夏 京合、水田敏彦、安西慶三、尾崎岩太. がん抑制遺伝子 PDCD4 の過剰発現はがん細胞のアポトーシスを誘導するが正常細胞には無効か? 第 36 回日本分子生物学会年会 2013.12.3-6 神戸 #1P-0527.

○ 中下俊哉、蒲池紗央里、小平俊一、岩根紳治、井手康史、大塚大河、江口有一郎、川添聖治、安西慶三、尾崎岩太、水田敏彦. 進行肝細胞癌に対する化学療法におけるビタミン K2 のアジュバント効果. 第 49 回日本肝臓学会総会 2013.6.6-7 東京 肝臓 54: A117(O-15), 2013.

○ 大枝敏、河口康典、井手康史、大塚大河、尾崎岩太、江口有一郎、水田敏彦、安西慶三. C 型肝炎からの肝発癌における肥満の関与 第 34 回日本肥満学会 2013.10.11-12 東京 肥満研究 19 supplement: 151(O-067), 2013.

○ Qi Jingyan、高橋宏和、浜島弘史、夏 京合、水田敏彦、安西慶三、尾崎岩太、松橋幸子. BCAA (Branched Chain Amino Acids) は PDCD4 がん抑制遺伝子の発現を上昇させる 第 36 回日本分子生物学会年会 2013.12.3-6 神戸 #1P-0500.

○ Xia J、尾崎岩太、Qi J、桑代卓也、岩根紳治、井手康史、江口有一郎、水田敏彦、安西慶三、松橋幸子

Protein kinase C(PKC)による低酸素誘導 HIF-1 誘導増強効果と Vitamin K2による調節. 第 49 回日本肝臓学会総会 2013.6.6-7 東京 肝臓 54: A260(P-9), 2013.

○ Xia J, Ozaki I, Matsuhashi S, Qi J, Iwane S, Takahashi H, Eguchi Y, Mizuta T, Anzai K Mechanisms of PKC-mediated enhancement of HIF-1 α activity and its inhibition by Vitamin K2 第 36 回日本分子生物学会年会 2013.12.3-6 神戸 #3P-0480.

* 岩根紳治、小平俊一、蒲池紗央里、岡田倫明、磯田広史、大枝敏、中下俊哉、河口康典、江口有一郎、尾崎岩太、水田敏彦 PEG-IFN+RBV の 2 剤治療で治療可能な症例の選別と BCAA の併用効果について 第 101 回日本消化器病学会九州支部例会 2013.6.21-22 北九州 プログラム・抄録集:83(S5-03), 2013.

○ 河口康典、井手康史、熊谷貴文、柳田公彦、安武努、大塚大河、江口有一郎、川添聖治、尾崎岩太、水田敏彦 C 型慢性肝炎に対する PEG-IFN/RBV/TVR 三剤併用療法の成績—佐賀県多施設共同研究—第 40 回日本肝臓学会西部会 2013.12.6-7 岐阜 肝臓 54 supplement(3): A787(-127), 2013.

* 北島陽一郎、江口有一郎、荒木紀匡、高橋宏和、水田敏彦、尾崎岩太、小野尚文、江口尚久、角田圭雄、兵庫秀幸、藤本一眞、安西慶三. NASH の線維化進展例では骨格筋が脂肪化し、骨格筋量は減少する:筋細胞内脂肪・筋面積の CT 解析より 第 40 回日本肝臓学会西部会 2013.12.6-7 岐阜 肝臓 54 supplement(3): A794(-142), 2013.

* 小平俊一、井手康史、蒲池紗央里、中下俊哉、岩根紳治、河口康典、江口有一郎、尾崎岩太、水田敏彦. 持続血糖測定装置(CGMS)によりDPP-4阻害薬の有効性が確認された肝硬変合併2型糖尿病の一例 第101回日本消化器病学会九州支部例会 2013.6.21-22 北九州 プログラム・抄録集:152(専 55), 2013.

○ 大枝敏、河口康典、辻千賀、蒲池紗央里、岡田倫明、桑代卓也。古川尚子、中下俊哉、井手康史、大塚大河、江口有一郎、水田敏彦、尾崎岩太、安西慶三 肝癌の初回診断ステージには日常診療におけるウイルス性肝疾患のマネジメントが影響する 第 40 回日本肝臓学会西部会 2013.12.6-7 岐阜 肝臓 54 supplement(3): A809(O-171), 2013.

○ 辻千賀、中下俊哉、蒲池紗央里、井手康史、大塚大河、江口有一郎、尾崎岩太、水田敏彦 バレニクリン酒石酸塩による薬物性肝障害が疑われた1例 第302回日本内科学会九州地方会 2013.08.24 別府 抄録集: 43(消化器3), 2013.

○ 辻千賀、蒲池紗央里、中下俊哉、大枝敏、井手康史、大塚大河、河口康典、江口有一郎、尾崎岩太、水田敏彦 脾臓に単独転移を来した Budd-Chiari 症候群関連肝細胞癌の一例 第 40 回日本肝臓学会西部会 2013.12.6-7 岐阜 肝臓 54 supplement(3): A817(P-8), 2013.

○ 辻千賀、蒲池紗央里、中下俊哉、岡田倫明、大枝敏、井手康史、大塚大河、河口康典、江口有一郎、尾崎岩太、水田敏彦 ソラフェニブの長期投与が可能であった肝細胞癌の 2 症例と長期投与に寄与する因子の検討 第 102 回日本消化器病学会九州支部例会 2013.11.8-9 宮崎 プログラム・抄録集 132(専 55), 2013.

研究会

○ Kuwashiro T, Ozaki I, Matsushashi S, Ide Y, Otsuka T, Mizuta T, Anzai K. Extracellular matrices (ECMs) weaken the interferon-alpha (IFN- α) signaling through the modulation of nuclear factor kappa B (NF κ B) signaling. The 20th Annual Meeting of the Japanese Society for the Research of Hepatic Cells (第20回肝細胞研究会) 2013.9.26-27, Osaka Proceedings: 87(P-19), 2013.

○ 中下俊哉、小平俊一、蒲池紗央里、岩根紳治、井手康史、大塚大河、江口有一郎、川添聖治、尾崎岩太、水田敏彦 進行肝細胞癌に対するソラフェニブ+ビタミン K2 併用療法 第7回日本肝がん分子標的治療研究会 2013.1.19 岐阜 プログラム・抄録集:95(35), 2013.

○ 中下俊哉、大塚大河、辻千賀、蒲池紗央里、井手康史、江口有一郎、川添聖治、尾崎岩太、水田敏彦 TACE 不応肝細胞癌に対するソラフェニブ療法 第8回日本肝がん分子標的治療研究会 2013.6.22 石川県(和倉温泉)プログラム・抄録集:87(22), 2013.

○ 中下俊哉、小平俊一、蒲池紗央里、岩根紳治、井手康史、大塚大河、江口有一郎、川添聖治、尾崎岩太、水田敏彦 進行肝細胞癌に対するソラフェニブ治療におけるビタミン K2併用の効果 第49回日本肝癌研究会 2013.7.11-12 東京 プログラム・抄録集 248(P113): 2013.

外部評価委員のコメント: 十分な研究が行われている(2名の委員とも同じコメント)。学会発表、研究論文報告数も多く、十分評価できる。

Ⅳ 国際交流及び社会連携・貢献に関する状況と自己評価

保健管理センターでは、地域の方々から、講演を依頼されることが多々ある。時間の許す範囲で、できるだけ、フィジカルおよびメンタルに関する社会連携・貢献を果たしている。その内容を以下に列記する。

<本庄キャンパス(佐藤・木道)>

講演

1. 木道圭子: 心と身体の健康管理について 平成25年度佐賀大学係長研修 平成25年7月11日 菱の実会館、佐賀.
2. 木道圭子: 生活習慣病について 佐賀県警職員ライフサイクル・健康教室 30 平成25年9月25日 佐賀県警察本部第1会議室、佐賀.
3. 佐藤 武: 人との接し方. 佐賀大学新入生アドバイザー研修会、佐賀大学、平成25年4月3日、佐賀.
4. 佐藤 武: 就活自殺をめぐる特集. NHKニュース特集、4月12日、(全国放送)
5. 佐藤 武: 心電図の読み方とマラソン中の仕事. アミノバリューホノルルマラソン、平成25年4月16日、4月20日、佐賀.

6. 佐藤 武：夫源病とは ～夫が原因で心身の不調を訴える病気～. N B C ラジオ：平松誠四郎のおはようラジオ、4月26日、長崎（電話生放送）.
7. 佐藤 武：新入生のメンタルヘルス予防. 佐賀大学農学部、佐賀大学、平成25年4月22日、佐賀.
8. 佐藤 武：大学生生活から有意義に過ごすには. 佐賀大学工学系研究会「フレッシュマンセミナー」、平成25年5月1日、佐賀.
9. 佐藤 武：職場のメンタルヘルス・早期離職の理由とその対策. N B C ラジオ：平松誠四郎のおはようラジオ、平成25年5月31日、長崎（電話生放送）.
10. 佐藤 武：ストレスとレジリエンス～人間関係力を高めるには～. 平成25年度佐賀大学中堅職員研修、平成25年6月24日、佐賀.
11. 佐藤 武：ストレスとレジリエンスの関係：現代の若者の悩み. N B C ラジオ：平松誠四郎のおはようラジオ、平成25年6月28日、長崎（電話生放送）.
12. 佐藤 武：メタボリックシンドローム解消方策について. 佐賀県警察本部、平成25年7月1日、佐賀.
13. 佐藤 武：K B C 「朝イチスクープ」 L I N E に疲れる若者たち」、アサデス K B C、平成25年7月4日、福岡.（放送）
14. 佐藤 武：ストレスとレジリエンスー喫煙とアルコール依存ー. 佐賀市警察署、平成25年7月10日、佐賀.
15. 佐藤 武：連絡がとれない学生への対応：キャンパスソーシャルワーカー. N B C ラジオ：平松誠四郎のおはようラジオ、平成25年7月26日、長崎（電話生放送）.
16. 佐藤 武：中高年のメンタルヘルス. いのちの電話、平成25年7月31日、佐賀.
17. 佐藤 武：K B C 「朝イチスクープ」～注目！携帯なし生活～アサデス K B C、平成25年7月31日、福岡.（放送）
18. 佐藤 武：中高年のメンタルヘルス. いのちの電話、平成24年8月10日、佐賀.
19. 佐藤 武：ストレスとのつきあい方. 健康・メンタルヘルス出前講座、佐賀市立松梅小学校、平成25年8月21日、佐賀.
20. 佐藤 武：精神の発達とその課題ー発達障害やうつ病の心理相談からー. 教員免許状更新講座、佐賀大学医学部、平成25年8月22日、佐賀
21. 佐藤 武：がんと尺八. 高木瀬公民館セミナー、高木瀬公民館、平成25年9月17日、佐賀.
22. 佐藤 武：ストレスとの上手なつきあい方. 平成25年度「佐賀大学フォローアップ研修」、佐賀大学、平成25年9月19日、佐賀.
23. 佐藤 武：いきいきと働くためのメンタルヘルスケアー私の人生経験から考えるー. 佐賀県看護協会看護共通研修会、佐賀県看護協会、平成25年9月25日、佐賀.
24. 佐藤 武：ネット社会の弊害：人と人のつながりを大切に. N B C ラジオ：平松誠四郎のおはようラジオ、平成25年9月27日、長崎（電話生放送）.
25. 佐藤 武：学生相談の臨床実践から、ひきこもりについて考える. ひきこもり支援研修会、北九州市保健所、平成25年10月3日、小倉.
26. 佐藤 武：うつ病の診断と治療. 鹿島・藤津地区ゲートキーパー勉強会（持田製薬）、平成25年10月23日、鹿島.
27. 佐藤 武：職場におけるメンタルヘルス. 佐賀大学副課長級研修、平成25年10月24日、佐賀大学、佐賀.

28. 佐藤 武：うつ病の教育が重要：自殺者を減少させるため。NBCラジオ：平松誠四郎のおはようラジオ、平成 25 年 10 月 26 日、長崎（電話生放送）。
29. 佐藤 武：メタボリック症候群とは一身体の脂肪はホルモン産生工場？一。平成 25 年度（第 50 回）九州地区国立大学学校会計事務研修。佐賀大学、平成 25 年 10 月 28 日、佐賀。
30. 佐藤 武：学生のネット依存について。有明高等専門学校、平成 25 年 11 月 5 日、大牟田。
31. 佐藤 武：職場のメンタルヘルス。佐賀大学中堅職員ステップアップ研修、佐賀大学、平成 25 年 11 月 19 日、佐賀。
32. 佐藤 武：警察官としてのメンタルヘルス。佐賀県警察学校、平成 25 年 11 月 21 日、佐賀。
33. 佐藤 武：最近のメンタルヘルスの考え方。佐賀県医師会「歩こう会」、佐賀県医師会、厳木「環境芸術の森」。平成 25 年 11 月 23 日、佐賀。
34. 佐藤 武：対象喪失と依存 ころの距離の調節。NBCラジオ：平松誠四郎のおはようラジオ、平成 25 年 11 月 29 日、長崎（電話生放送）。
35. 佐藤 武：うつ病の診断と治療。武雄地区ゲートキーパー勉強会（持田製薬）、武雄センチュリーホテル、平成 25 年 12 月 12 日、武雄。
36. 佐藤 武：ネットゲーム等が心や体に与える影響。平成 25 年度 保健主事・養護教諭合同研修会、佐賀県スポーツ会館、平成 25 年 12 月 17 日、佐賀。
37. 佐藤 武：うつ病。いのちの電話、アバンセ、平成 25 年 12 月 18 日、佐賀。
38. 佐藤 武：TLC（生活改善療法）規則正しい生活と運動。NBCラジオ：平松誠四郎のおはようラジオ、平成 25 年 12 月 27 日、長崎（電話生放送）。
39. 佐藤 武：ミドルリーダーのメンタルヘルス～働きすぎによる「うつ病」。教職員 10 年経験者研修、佐賀県教育センター、平成 26 年 1 月 6 日、佐賀（大和）。
40. 佐藤 武：モラル・ハラスメント。NBCラジオ：平松誠四郎のおはようラジオ、平成 26 年 1 月 24 日、長崎（電話生放送）。
41. 佐藤 武：職場のメンタルヘルスについて。佐賀県社労士会 労務管理研修、平成 26 年 2 月 5 日、佐賀。
42. 佐藤 武：うつ病の診断と治療。佐賀心と体を考える会、ホテルニューオータニ、平成 26 年 2 月 17 日、佐賀。
43. 佐藤 武：睡眠障害やうつ病発症の背景に潜むネット依存について。佐賀県産業保健研究会、佐賀県産業医学協会、平成 26 年 3 月 5 日、佐賀。

市民活動

1. 佐藤 武、RIE、柴 佳宝：「ファンタスティック・エアロビクス」（3ヶ月コース）。佐賀新聞文化セミナー（平成 25 年 4 月 1 日～同年 6 月 30 日）、佐賀。
2. 佐藤 武、RIE、柴 佳宝：「ファンタスティック・エアロビクス」（3ヶ月コース）。佐賀新聞文化セミナー（平成 25 年 7 月 1 日～同年 9 月 30 日）、佐賀。
3. 佐藤 武、RIE、柴 佳宝：「ファンタスティック・エアロビクス」（3ヶ月コース）。佐賀新聞文化セミナー（平成 25 年 10 月 1 日～同年 12 月 31 日）、佐賀。
4. 佐藤 武、RIE、柴 佳宝：「ファンタスティック・エアロビクス」（3か月コース）佐賀新聞文化センター（平成 26 年 1 月 1 日～同年 3 月 31 日）

科学研究費補助金など

1. 木道圭子：平成 24 年度挑戦的萌芽研究 「非侵襲的検査による Brugada 型心電図の予後予知」（2 年間）
2. 木道圭子：平成 24 年度教育プロジェクト支援経費「学生の健康面の問題についての医療的支援（禁煙サポート、肥満学生への医療的アプローチ）」
3. 佐藤 武：総務省：サガン鳥栖健康増進プログラム推進事業（サガン鳥栖健康増進プログラム地域協議会会長：佐藤 武）（予算は 2010 年度より、事業は 5 年間）。

鍋島キャンパス（尾崎）：

講演等

尾崎岩太. 佐賀県の肝疾患の現状. 佐賀県肝癌撲滅フォーラム世話人会 2012.1.17 ホテルマリターレ創世（佐賀市）

尾崎岩太. 佐賀県における肝炎助成制度によるインターフェロン治療の現状. 佐賀県医師会肝癌部会研修会 2012.1.27 佐賀県医師会成人病予防センター（佐賀市）

尾崎岩太. 佐賀県の肝疾患の現状. 佐賀県肝炎コーディネーター養成研修会. 2012. 11.28; 11.30; 12.5 佐賀大学肝疾患センター（佐賀市）

この領域も日々の多忙な業務の中、地域の要請にできるだけ答えるように努力し、その成果は得られていると思われる。

外部評価委員のコメント：地域に対しても十分な貢献ができています。もし、国際交流などがあれば、記載しておいた方がよい。

答え：国際交流はなかったので、記載しなかった。今後、もし国際交流について何かがあれば、記載する。

V. 組織運営・施設・その他部局の重要な取組に関する状況と自己評価

佐賀大学における学内の各種委員会に積極的に参加し、学内の学生および教職の問題点に保健管理センターとして、意見を述べている。それぞれの教員の参加している委員会を列記する。

委員等(佐藤 武)：

〔学内〕

保健管理センター運営委員会（委員長）・労働安全衛生委員会（委員長）・統括安全衛生管理委員・学生モニター会議委員・入試委員会・学生委員会（オブザーバー）・大学教育委員会（オブザーバー）・

教育室会議委員・医学部研究科委員会・本庄地区産業医・附属中学校保健委員・附属特別支援学校保健委員・施設マネジメント委員会

〔学外〕

国立大学保健管理施設協議会理事（メンタルヘルス委員会委員長）・全国大学保健管理協会理事・日本精神衛生学会理事・全国大学メンタルヘルス研究会運営委員・九州地区大学メンタルヘルス研究協議会運営委員（代表世話人）・日本総合病院精神医学会評議員・日本サイコオンコロジー学会世話人・九州地区大学保健管理研究協議会評議員・九州精神神経学会評議員、佐賀県教育関連職員メンタルヘルス対策検討委員会委員など。

〔査読委員〕

「INFORMATION An International Interdisciplinary Journal」「Asian-Information-Science-Life」「精神神経学雑誌」「日本ペインクリニック学会誌」「九州神経精神医学」「CAMPUS HEALTH」「こころの健康」など。

委員等（木道 圭子）：

〔学内〕

平成 25 年 8 月 1 日より学生支援室（集中支援部門）に異動
保健管理センター講師併任となった。

保健管理センター運営委員会（委員）、本庄地区労働安全衛生委員会（委員、産業医）、本庄地区産業医、ハラスメント相談員

委員等（尾崎 岩太）

〔学内〕

佐賀大学安全衛生管理委員会・佐賀大学医学部安全衛生委員会・佐賀大学医学部教育委員会（オブザーバー）・佐賀大学動物実験委員会・佐賀大学医学部付属病院放射線障害防止委員会・佐賀大学医学部及び附属病院エコアクション 21 委員会・佐賀大学医学部附属病院社会保険委員会・佐賀大学医学部附属病院感制御部会議・佐賀大学ハラスメント相談員・佐賀大学鍋島事業場産業医

〔学外〕

佐賀県肝疾患対策委員会（委員長）

佐賀県肝炎治療助成費認定協議会

佐賀県国民健康保険診療報酬審査委員会

Peer reviewer

Hepatology Research

Cancer Letters

Oncogene

J Nutritional Biochemistry

J Translational Medicine

PLoSone

この領域においても、各種委員会に可能な限り出席しており、十分な役割を果たしているといえる。

外部評価委員のコメント：十分よい。学内の委員として、あるいは産業医として十分な活動が行われている。健康業務の立案と実施においては看護師の寄与が大きい。危機管理マニュアルもよく制定されている。保健管理センターの玄関に、医師勤務予定表、カウンセラーの勤務予定表を記載して、掲示してください。

答え：医師については保健所からの指摘があり、掲示しているが、カウンセラーについては、記載していなかった。次年度は、カウンセラーについても、記載して、掲示する。

佐賀大学保健管理センター外部評価 評価調査票
(平成25年度実績に対する評価)

委員名：田端 正明

項番	評価項目	評価	評価についてのコメント
1	学生支援の領域	☐ 十分良い ☒ おおむね良い ☐ やや悪い ☐ 不十分	平成24年度とほぼ同じ活動を実施され、その結果は資料7によくまとめある。記述文章は前年度の同じであり、数値が違うだけである。前年度と数値の比較とその考察が必要でないだろうか。保健管理センターの利用者数が増えたのは、センター活動の認識が高まったと考えられる。しかし、それだけ健康において問題のある学生が増えたことであろう。医学部の大学院生の定期健康診断の受診率が低いのは原因究明とその対策が必要でないだろうか。
2	教職員支援の領域	☐ 十分良い ☒ おおむね良い ☐ やや悪い ☐ 不十分	健康管理のデーターは資料6に良くまとめられている。鍋島キャンパスは教職員の現状分析を簡単にまとめてあるが、前年度とほぼ同じ文章である。本庄地区では記述がない。健康診断など重要なデーターが含まれているので、課題や対策についてもっと検討した欲しい。更には、保健管理センターだけでは解決できない、大学との協議が必要な事項もあると思う。
3	教育の領域	☒ 十分良い ☐ おおむね良い ☐ やや悪い ☐ 不十分	多数の学生と教職員の健康診断を実施されている中で、教育も十分されていると考える。指導されている大学院生の数も多い。指導教員名が分かるようにして欲しい。

4	研究の領域	☒ 十分良い ☐ おおむね良い ☐ やや悪い ☐ 不十分	多忙の中、学会発表や研究論文の発表をしておられる。十分である。
5	国際交流・社会貢献の領域	☒ 十分良い ☐ おおむね良い ☐ やや悪い ☐ 不十分	学内での研修会、警察署、ラジオ放送番組、佐賀新聞セミナーなどで多数回講演されており、社会貢献は十分である。交際交流は記述なし。
6	組織運営の領域	☒ 十分良い ☐ おおむね良い ☐ やや悪い ☐ 不十分	学内の委員として、あるいは産業医として十分活動しておられる。健康業務の立案と実施においては看護師の寄与が大きい。危機管理マニュアルもよく制定されている。

7	施設の領域	☒ 十分良い ☐ おおむね良い ☐ やや悪い ☐ 不十分	消防施設の管理とマニフェストを含めた 廃棄物の管理は十分なされていると考え られる。
---	-------	--	--

佐賀大学保健管理センター外部評価 評価調査票
(平成 25 年度実績に対する評価)

委員名：江藤 敏治

項番	評 価 項 目	評 価	評価についてのコメント
1	学生支援の領域	☒ 十分良い ☐ おおむね良い ☐ やや悪い ☐ 不十分	学生健康診断受診率は 84.5%と高率であったが、スポーツ健康診断受診率が 60.8%と低下したことは、学生への周知方法の改善が必要であると考えられた。 新入生のメンタルヘルスクリーニング回収率は 99.7%と高率で高スコアの学生に対して面接が施行されたことは学生ケアの上で高く評価できる。卒業予定者の回収率は 74.6%とやや低いものの要面接の学生が平成 24 年度に比べ 8.8%減少していたことは平成 23 年度からのキャンパスソーシャルワーカー導入が有効に機能していると評価できる。 平成 24 年から平成 25 年度の健康相談とメンタルヘルス相談件数は 2800 件から 3366 件と大幅に増加し学生ケアのさらなる充実が図られたと考えられた。平成 24 年度に導入された健康診断結果自動発行機の発行件数が 5973 件に達したことも保健スタッフの業務軽減につながり、さらにきめ細かい学生へのケアを可能にしたと考えられた。 全国平均レベルではあるものの休学者 250 名、退学者 139 名と昨年度と同様の状況であった。更なる学生へのケアと保健管理センターへのつなぎの工夫が必要と考えられる。

2	教職員支援の領域	☒ 十分良い ☐ おおむね良い ☐ やや悪い ☐ 不十分	日常業務としての各種健康相談ならびにメンタルヘルス相談件数は平成 24 年度 1525 件から平成 25 年度 2034 件と増加し大学教職員の健康支援に貢献していると考えられる。また、休職した職員への復職支援件数も延べ 94 件を超え、大学保健管理センターとして十分機能を発揮していると考えられる。さらに本年度から異動職員に対するカウンセラー面談が実施されるようになり教職員へのケアの充実が図られたことは高く評価できる。 職員定期健康診断の受診率も昨年度と変化ないものの、精密検査報告書提出ならびに健康診断事後指導実施率が低く職員への更なる啓発活動が必要である。
3	教育の領域	☒ 十分良い ☐ おおむね良い ☐ やや悪い ☐ 不十分	昨年度に引き続き、通年講義の「健康科学」をはじめ文化教育学部、農学部、理工学部、医学部など複数学部学生への講義を担当するなど、大学保健管理センター教員として学生への健康教育貢献度は高いと考えられる。さらに、大学院医学研究科において、大学院生の指導を担当（兼任）するなど、教育領域において十分評価できる活動をしていると考えられた。
4	研究の領域	☒ 十分良い ☐ おおむね良い ☐ やや悪い ☐ 不十分	大学保健管理センターにおける忙しい日常業務の中において、学会発表ならびに研究論文件数は高く評価できる。 また「非侵襲的検査による Brugada 型心電図の予後予知」研究は大学生における突然死を予防する上で極めて重要な研究であると高く評価できる。今後も産業医業務を含めた日常業務の中から研究テーマを見出し大学というフィールドに研究成果をフィードバックしていくことが重要となると考えられる。

5	国際交流・社会貢献の領域	☒ 十分良い ☐ おおむね良い ☐ やや悪い ☐ 不十分	平成 24 年度同様、地域の求めに応じた講演会やエアロビクス普及活動、各種委員会委員、佐賀県の受託研究である肝臓疾患研究、サガン鳥栖健康増進プログラム推進事業など大学保健管理センター教員としての社会貢献は十分評価できる。同時に留学生への健康相談と各種相談も国際交流領域において貢献していると考えられる。
6	組織運営の領域	☒ 十分良い ☐ おおむね良い ☐ やや悪い ☐ 不十分	大学保健管理業務である健康診断にはセンター看護師がスケジュール立案するなど円滑に運営されている。また、健診データや健康相談情報については鍵付き保管庫に収納するなど安全管理が適切に行われている。加えて、大学における各種委員会にも委員およびオブザーバーとして参加するなど、大学に必要不可欠な資源として十分貢献していると考えられる。
7	施設の領域	☐ 十分良い ☒ おおむね良い ☐ やや悪い ☐ 不十分	(平成 24・25 年度共通) 保健管理センターカウンターはオープンカウンター方式で学生も相談に訪れやすい雰囲気であった。相談室のプライバシーも保たれるように個室となり、来訪者に対し十分配慮されていると感じられた。 日常診療施設も足浴設備も配備され学生ケアに十分な設備であった。また、薬品保管についても劇物などは鍵付き保管室への配置が行われ、薬品在庫管理も毎月行われるなど適切に管理されていた。 改善すべき点として、保健管理センターカウンターに医師勤務予定表は掲載されているものの、カウンセラーの勤務予定表が掲載されておらず学生・教職員への配慮が不足していると考えられた。また、消火器周囲の整理と内開きドア周囲の本棚などの転倒防止のための固定が不十分な個所が認められた。